

＜日商簿記1級工業簿記ミニテスト15＞総合原価計算の仕損

＜問題＞

次の資料にもとづいて、非度外視法により、完成品原価、完成品単位原価および月末仕掛品原価を求めなさい。計算過程で端数が生じる場合は、最終結果を円未満で四捨五入すること。

【資料】

「生産データ」	A製品
月初仕掛品	50 (40%)
当月投入	300
合計	350
正常減損	20
月末仕掛品	30 (60%)
完成品	300

()内の数値は加工進捗度を示す。材料はすべて工程の始点で投入されている。

正常減損は工程を通じて平均的に発生している。

完成品と月末仕掛品への原価配分は平均法を採用している。

「原価データ」

	A製品
月初仕掛品原価	
直接材料費	50,000
加工費	30,000
当月製造費用	
直接材料費	317,500
加工費	494,800

＜解答＞

完成品原価	829,906
完成品単位原価	2,766
月末仕掛品原価	62,394

非度外視は仕損品原価を計算し、箱を分離

→ 定点発生は数量換算、平均的発生は換算量換算

減損の平均的発生は減損の加工費は 1/2 換算 (理由は下の図)

